



心・磨穿鉄硯・夢

東京都町田市立薬師中学校

第3学年 学年通信

2025年11月6日(木)

Vol.28

※学年だよりで使用されている写真や作品の SNS 等への掲載はご遠慮ください。

悔いのない一週間に

6日後に大事な期末考査を迎えます。このテストは、皆さんの内申点、そして志望校合格に向けて、これまでの努力を形にするための重要な一戦です。不安やプレッシャーもあるかと思いますが、残りの6日間を有効に使うことができれば、必ず結果はついてきます。今、一番大切なのは「やればできる!」「最後まで諦めない!」「〇〇高校に絶対合格したい!」という強い気持ちです。自分を信じて、最後までやり遂げましょう。

各教科の先生が出題する問題は、ワークや授業で配られたプリントから出題されることが多いです。まずは、応用問題や発展的な内容も大事ですが、まずは確実に得点につながる部分を固めていきましょう。ワークは3周を目標に、間違えた問題、わからなかった問題を中心に、自分で説明できるところまで取り組みましょう。

以前も言ったことがありますが、“わかる”と“できる”は似ているようで大きな違いがあります。よくテストが終わると、「わかっていたのにできなかった……。」「わかっていたのに間違えた……。」という会話を耳にします。つまり、授業でわかっていても、実際のテストでできなければ意味がありません。それは、理解した内容を繰り返し実行したかどうかに関係しています。教科書を読んだだけで、安心している人はいませんか。理解したことを、書き出したり、反復練習したり、“わかる”を“できる”に変えてから、本番に臨むことが大切です。

また、各教科から出ている提出物も有効活用してください。提出することを目的にするのではなく、早めに取り組んでテスト勉強として活用しましょう。くれぐれもテスト終了後の放課後に慌ててやることがないように……。 (前回の中間考査でも数名いました……。)

残された時間を、最高の準備期間にしてください。目標達成に向けて、最後のひと踏ん張りです。



スピーキングテスト迫る!

来週に期末考査が迫っていますが、17日月曜日は3回目の『領域診断問題』、23日日曜日は『中学校英語スピーキングテスト』と受験

生にとって大切な試験が続きます。特にスピーキングテストは、都立試験に加算される重要な試験です。事前に資料を確認して、万全な状態で本番を迎えましょう。今週、スピーキングテストに関する資料を2部配布しています。必ずご家庭でご確認ください。

①受験案内 11月23日(日・祝)本試験日用 **②受験の手引き**

作文紹介



音楽祭実行委員として

生徒

私が音楽祭の実行委員になったのは、1、2年生から実行委員を続けていたからというのがありますが、一番の理由は3年3組の一員として、皆で負けても勝っても良い思い出を作りたいという純粋な気持ちからでした。しかし、その道のりは想像以上に険しいものでし

た。練習が始まって、中々静かにならず、注意をしても指示が通らないような状態でした。やる気のない人もいて、何度声をかけても、練習に身が入らない状況が続きました。自分の頑張りが空回りしているようで、悔しさと無力感でいっぱいになりました。そんな辛い日々を支えてくれたのは、いつも話を聞いてくれる親友と協力してくれる指揮者や伴奏者、パートリーダーたちでした。朝、まだクラスの人々が登校していない時間に集合して、どうすればもっと合唱が良くなるのか、という風に歌の工夫をしたら、聞いている人に歌詞が伝わるのか話し合ったのは、いつも合唱のリーダーたちでした。練習内容を変えてみたり、パートリーダーと連携してやりたいことを各自で伝えてくれたりと、あの手この手で工夫を繰り返しました。しかし、どれだけ懸命に働きかけても、なかなかクラス全体を動かすことはできませんでした。「どうせ勝てない……」という声が練習中に聞こえるたびに、私は何度も心が折れそうになりました。

それでも私は諦めませんでした。本番が近づくにつれて、最初は乗り気でなかった人たちも、少しずつ真剣に歌い始めてくれました。本番当日、舞台に立った私たちは、今までの練習の中で一番良い合唱をすることができました。結果は、残念ながら最優秀賞を取ることはできませんでした。他のクラスの生徒たちが悔し涙を流す中、私は泣きそうになりましたが理性を保って、実行委員としての仕事を最後までやりきりました。この音楽祭で流すべき涙は、悔しさの涙ではないと思ったからです。実行委員だけでクラスをまとめなければいけなかったという責任、皆を巻き込めなかった不甲斐なさ、そして、それでも最後までやり切ったという自負。さまざまな感情が入り混じり、涙が出ませんでした。しかし、音楽祭が終わったあとクラスの皆から「お疲れ様！」と声をかけられた時は涙腺が緩んで涙が出そうになりましたが、頑張った「みんなもお疲れ様！」と返したのを覚えています。この経験は、私にとって大きな学びとなりました。クラスをまとめることの難しさ、自分の力だけではどうにもならない現実、それでも諦めずに努力することの大切さ。何よりも、辛い時に支え、協力してくれる仲間がいることの心強さを知りました。結果は負けてしまいましたが、クラスが一つになれたという事実こそが、私たちにとっての最高の勝利だったと今は感じています。

先週、机の上に置いてあった『第1学年だより』を読んでいると、ある作文が目飛び込んできました。その一部を紹介します。

3年生の合唱は、本当に圧倒的でした。一人ひとりの声が力強く、クラス全体としての一体感と迫力がすごくて、「かっこいい」という言葉だけでは表せないほどの感動がありました。最高学年としての意地と、これまでの学校生活で培ってきた絆が、あの力強い歌声となってホールに響き渡っていたように感じます。3年生の合唱を聞いて「来年は、僕たちもあんな風に歌いたい。」という強い目標ができました。(第一学年だより作文より引用)

この学年の行事に対する熱い思いは、しっかり後輩たちへ伝わっています。